



たくさんの「ありがとう」と「笑顔」が集まる学校



令和7年 3月19日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.31

茶道から学ぶ

今年度も残すところわずかとなりました。少し前の話になるのですが、2月26日・27日に学校運営協議会にもお力添えをいただき、6年生が茶道体験の授業をしました。例年この時期に授業を実施しているのですが、今回はこの体験を通じての6年生の成長と気づきを共有させていただきたいと思います。

20分間私と授業して、20分間お茶をいただきながら運営協議会の方からのお話を聞くという流れで進めました。授業では「茶道からどんなことが学べるとおもいますか？」から始め、この時間を通して何を学ぶことができるのかについて考えました。クラスによって出てくることが若干違いましたが「歴史、礼儀、お茶の味、言葉」など出し合うことで学びのスイッチを入れていました。その後茶道の流れの動画を見た後にお茶がどのように伝わったのかについて話をしました。中国から持ち帰ったお茶の実3つから今に至っている話を本物のお茶の実を見せながら話したことで驚きがあったようです。あとは茶道の歴史や作法、茶道で使われるお茶碗や道具、亭主と客、茶道で生まれた言葉について学習しました。お茶をいただくときには、学校運営協議会の高杉さんからお茶席や和菓子、礼のことや一期一会の話などを教えていただきました。

茶道体験を通じて礼儀作法の大切さを感じ、感謝の気持ちを育んだようです。以下の丸の中に書いているのは主な学びについてです。

<歴史と文化の理解>

茶道の歴史や文化について学び、特に中国から伝わったことや千利休の教えに触れたことが印象的だったこと。

<特別な体験>

実際にお茶を点てたり、道具に触れたりする体験が特別なものとして記憶に残り、今後の学びにも活かしたいという意欲を持っていること。

<一期一会の意識>

今この瞬間を大切にすることの大切さを学び、これを今後も意識していきたいと感じたこと。

<礼儀と作法>

茶道を通して礼儀や作法の重要性を理解し、これらが日常生活にも役立つと感じたこと。



<感謝の気持ち>

材料を用意してくださった方やお茶を点ててくださった方への感謝の気持ちを持ちながら、お茶をいただいたこと。

短い時間でしたがさすが6年生です。終了してから書いた感想から上記のような分析につながりました。日常から飲んでいるお茶について茶道というフィルターを通すことで様々な学びにつながったようです。一緒に学習した6年生もいよいよ卒業です。学校で得た多くの学びを力に変えて進んでいってほしいです。

普段飲んでいるお茶からどんなことが学べますか？